



辻川だより

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujukawa/>

第21号 [2012 春号] 平成24年4月7日発行



「カラー舗装」された旧道

はめ込まれたプレート

4/29(日・祝) 運動会の確認

- 天候の判断が難しい場合は6時に放送
- 隣保のテント設営は7時30分以降に
- 9時:開会式 ■ 15時:閉会式の予定
- テント撤収は閉会式の後にしてください

地域の夢推進事業
区長 釜坂道弘

2月末から辻川地区において、旧道の舗装美化工事が始まりました。

この事業は、兵庫県「地域の夢推進事業」の補助を受け、福崎町が実施しています。この道路は、「銀の馬車道」と呼ばれ、明治の初めに生野と飾磨港を結ぶ道として建設されたものです。正式には「生野鉢山寮馬車道」と呼ばれ、日本初の高速度産業道路といわれています。

ここ辻川区は、この「銀の馬車道」の中央部に位置し、古くから人・物・情報の行き交う場所として栄えてきました。また、重要な行政機関が集まり神崎郡の中心地として賑わいのある地域でもありました。

完成から約130年がたった今では、賑わいも残念ながら薄れてきたものの、豊かな暮らしを夢み、情熱を燃やした昔の人たちの気持ちと今回の美化工事がつながればと願っています。

新しくなった高藤稲荷の鳥居と初午祭



協議員会は今

- 2・3月の定例協議員会での報告・検討内容を一部紹介します。
- ① 山口堂建設工事について
 - ② 今年度の防災訓練は、震災でライフラインが寸断された場合のために、区内の井戸と汲み取り便所の所在確認を実施
 - ③ 第25回運動会の内容及び準備と役割分担確認
 - ④ 「地域総合援護システム推進事業」を実施するために福祉委員会開催。計画書作成を協議員の任期と選出方法について利点・欠点意見交換
 - ⑤ 隣保の側溝脇の整備
 - ⑥ 田原幼児園横の「ゴミステーション」移設

「お知らせ」

- **福祉委員会開催される。**
今年度、辻川区として取り組む「地域総合援護システム推進事業」について、2月14日、民生委員・福祉委員・協議員が町担当職員より説明を受けた。広報くさき1月号にもあったように町では災害時要援護者登録を呼びかけている。現在作成中の「防災・コミュニティマップ」にもつながる取り組みになりそうだ。
- **旧道のカラー舗装始まる。**
県と町が3カ年計画で取り組む「地域の夢推進事業」(平成23年度から)として「辻川地区舗装美化」の第一期工事が行われた。3月末までに、元松岡百貨店から田尻交番までがストリートプリント工法で舗装された。道の南側(東行き



4/1 辻川山

梅(上)と開花直前の桜(下)

- ◆ **当面の予定**
- 4月28日(土) 民俗(辻)広場まつり(福崎町主催)
 - 4月29日 第25回運動会
 - 5月20日(日) 溝普請
 - 6月 フラワーポット植替
 - 7月7日(土) 各種団体・隣保長会議

求む!懐かしの写真

今夏の辻川界隈展では美化された旧道沿いで、昔懐かしい写真展を計画しています。明治・大正・昭和の辻川界隈の写真がありましたらお貸しください。スキャン後、お返しします。↓連絡は井上か松岡(文化担当)までお願いします。

祭礼行事報告

- ◆ 1月1・2日 正月祭り
- ◆ 1月8日(日) 冬えびす
- ◆ 11隣保の方を始め、20余名の参拝があった。暖をとりながらお神酒とみかんをいただいた。



◆ 1月14日(土) とんど
午後3時〜6時に焚く。正月飾りを持ってお参りされた方は高藤稲荷の方が多かった。

以上十一隣保 以下十二隣保

◆ 2月3日(金) 節分 年越祭
十二隣保最初の祭儀。節分は立春の前日、古くは立春から新年が始まると考えられていたため、節分は年頭の行事として重んじられていた。現在でも節分祭や鬼追い(追儺)が行われる社寺がある。板坂の應聖寺では鬼追いと「探灯大護摩」が行われるそうだ。鈴の森神社でも歳灯が大きく燃え上がった。

◆ 2月12日(日) 初午祭
小さな隣保で景品集めが困難であるため、今年も福引が取りやめになった。夏えびすの福引が取り止めになって三十年弱。福引継続には隣保を越えた世話役集団が必要か。神社正面に新調された鳥居も併せてお祓いしていただいた。

事業報告

- ◆ 1月22日(日)
平成24年度辻川区総会
100名出席。新区内入り3世帯。第1〜5号議案承認。山口堂建設は4月着工・7月完成予定。また今年度、協議員選出方法再検討、鈴の森神社玉垣改修計画策定、地域総合援護システム推進事業等を実施したい旨、報告された。
- ◆ 「質問・意見」: 防災マップ作成のための昨年度調査結果公表を。辻川山旧住宅跡地の返還要求継続を。鈴の森神社駐車場からの土砂流出手直しを、等。
- ◆ 1月28日(土)
新隣保長会議
- ① ブロック長の選出
- ② 町内会費徴収について
- ③ 2〜4月行事・事業確認
- ④ 十一隣保から平成24年度祭礼行事日程について等
- ◆ 2月上旬
防災設備調査
自主防災訓練の一環として今年度は、停電及び上下水道が寸断された場合に必要になる井戸と汲み取り便所の所在確認を隣保単位で実施した。調査結果の概要は、汲み上げ可能な井戸は区内に16軒、汲み取り便所は27軒あった。ともに旧の街道筋に多かった。提供していただいた情報は任意の個人情報であり、その使用については慎重に扱う必要がある。区民全体への詳細な公表は差し控えたい。なお、次回調査では有事の際の使用許可について協力確認を個別に行う予定。

平成24年度辻川区役員一覧 [総軒数三三四軒]
4月から団体役員の一部変更があります。(4/7現在)

区長	釜坂 道弘	団体役員	(代表のみ紹介)
副区長	内藤 政義 (総務)	老人会	会長未定
会計	新見 良一	(第1・2・3分)	
協議員	() は主な担当	女性部	鈴木 照子
		商工部会	古井 徹夫
		農業部会	上延 英一
		消防団	多田 和樹
		青年団	森江 優也
		小学PTA	猶原 良人
		中学PTA	中川 浩
		上部派遣役員	
		民生委員	山下美紀
		福祉委員	鈴木まき子
		補導委員	岡本徳子
		人権教育推進委員	松岡初子
		青少年健全育成委員	駒田富男
		体育普及員	内藤政義
		文化財協力委員	松岡博子
			釜坂好隆
			駒田仁
			田崎正和



明治4(1871)年 辻川村絵図 (三木家文書)

辻川の道

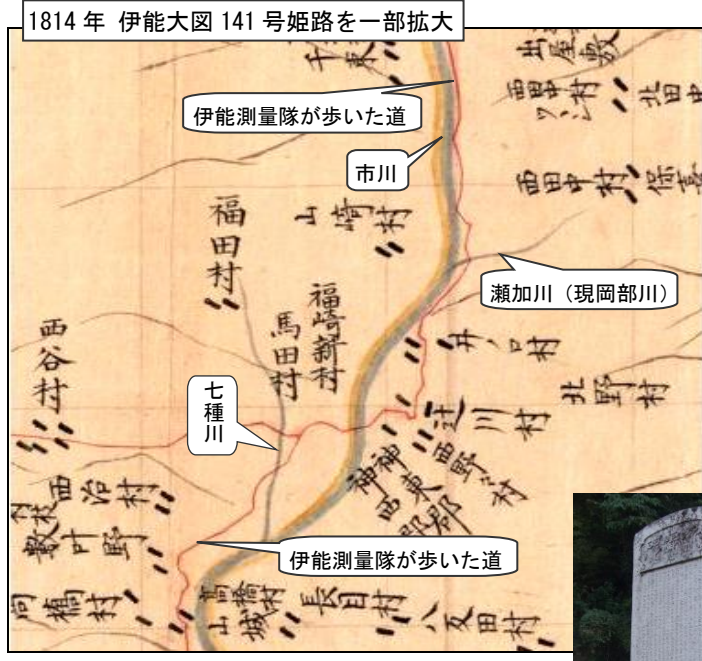
江戸時代後期から現代に至る辻川の道とまちの変遷を古地図や国土地理院の地形図をもとに振り返ります。道が新しくできることにより町並みの変化していく様子がよく分ります。4回連載(21号)1(24号)4)でお届けします。ご期待ください。

1 伊能忠敬の道と堰溝 (江戸時代後期)

幕府の命を受け、全国を測量して日本地図を作成した伊能忠敬は、文化十一年(1814)播但街道を測量した。姫路城下福中町で新年を迎えた忠敬は四日福中町を発して、仁豊野に至り宿泊、その後、二隊に分れて但馬・丹波に向かった。忠敬らの本隊は加西・多可・氷上郡を通って丹波街道へ。永井甚左衛門ら(注1)の支隊は神西・神東郡を通って但馬街道を測量している。一月七日夜、福崎新村字新町の酒造家鹿島屋孫四郎宅に宿泊した支隊は、午前七時ころ福崎新村を出て但馬・因幡街道の追分(分岐点)より但馬街道の測量を始め、まもなく船で市川を渡っている(現神崎橋付近)。市川を渡る箇所から測量日記(注2)を見てみると、

『市川幅百十四間(注3)、内舟渡水幅四十五間。中央界。神東郡西野々村、辻川村、右酒見徳条道(北条の酒見寺への道)』追分。此より二里(注4)北野村。木虎川石橋(現谷川と上井用水の交差する所(通称下井水)か)三間。井口村、左巡見使街道。市川渡

舟場(現月見橋付近)。川向は山崎村道追分。(以下、現市川町へ)西田中村、右丹波道追分。瀬加川三十間。西川辺村枝出屋敷。屋休庄屋佐十郎。浅野村(注4)左図はその際つくられた地図(復元図)である。米国議会図書館に所蔵されていることを知りインターネットで検索した。その地図と測量日記、そして明治四年(1871)の辻川村絵図(左上図)から推測した測量隊のコースは、西野から市川左岸に沿って駒ヶ岩付近まで北上し、そこから下井用水を横切り東へ、十一隣保から旧道へ出て六隣保の鈴木さん宅西から堰溝(上井用水)に沿って旧生野街道(但馬道)を北上したように見える(注5)。



1814年 伊能大図 141号姫路を一部拡大

堰溝は大庄屋三木家五代目当主三木通庸(別称甚右衛門)が寛政元年(1789)に姫路藩の許可を得て井ノ口村の北にある大ヶ鼻の岩をくり貫き造ったと伝えられているからである。堰溝沿いに道がつくのは後の維持管理や利水にとって至極当然のことか。ちなみに市川の水を引くこの溝によって下流の村の米の収穫量は5倍にもなったそうだ。通庸の死後、天保一四年(1843)にはその功績に感謝して、井ノ口、北野、辻川、田尻、吉田、大門、西光寺、西野、八幡の9カ村が「新渠碑(しんきやい)」という石碑を井ノ口に建てた。(注6)



旧道から北の堰溝(ゆみぞ)沿いの旧生野街道は、少なくとも伊能隊が通る20年以上前には存在したようだ。というのは、

(注5) 鈴木さん宅前から旧道をもう少し東進し上坂を北上、鈴の森神社下から古宮の南を下ド橋へ、という見解もある。

編集後記

昨年3月11日の東日本大震災から1年が過ぎました。報道はどうしても原発や津波被害関連に偏りますが、1995年阪神淡路大震災よりもはるかに甚大で広範囲に斜面崩壊や液状化被害が広がっていたはず。液状化は震源から遠く離れた東京湾岸地域だけでも神戸のその4倍の面積に発生したそうです。被災地の復興は緒に就いたばかりです。私たちの多くに今出来ることは、被災された方のことを忘れないことです。マザー・テレサは言われました。『愛の反対は「憎しみ」ではない。『無関心』である』と。見守ってくれる人の存在が困難に立ち向かう勇氣を奮い起こさせます。ニュースに関心を持ち続けましょう。

さて、今年度の辻川だよりの特集は『辻川の道』です。実は日本古来の街道はその多くが活断層上にあります。大地に加わる力により常に破壊される箇所の地上に活断層があり、破壊が継続すると谷筋ができます。その断層帯には地下水が集まりやすく、湧水があると集落ができ、その村々をつなぐ交易路が街道になりました。幾度となく地震で破壊されてもやはり便利だから人が住み着くのです。今年度紹介する『辻川の道』は活断層とは無関係ですが、広く見れば辻川地区全体が山崎断層帯の直上にあることは事実です。山崎断層地震に備えましょう。編集後記が長くなり失礼しました。「田崎」